

# 23年度 入学式を挙



東京千代田区富士見  
日本歯科大学新聞会  
発行兼人 中原 泉  
編集人 1部10円  
発行日 偶数月末日  
定価 1部10円  
編集室 (〒951-8580)  
新潟市中央区浜浦町1-8  
☎025(267)1500



本学のシンボルマーク

ベストレクチャー賞  
本学は、平成二十二年  
度ベストレクチャー賞を  
両学部の三氏に授与した。  
ベストレクチャー賞選考  
委員会は、平成二十二年  
度

の「学生による授業評価」  
調査票の集計結果に基づ  
いて、両学部より学生評価  
のリーダーチャート上位各  
三名を選考した。  
(受賞者は別掲)

## 晴れの新入生たち

平成二十三年度の日本歯科大学の入学式は四月初旬、生命歯学部と新潟生命歯学部で挙行された。あわせて大学院の両研究科、東京短大、新潟短大の入学式も行われた。入学式では開式に先立ち、東日本大震災の犠牲者に黙祷を捧げた。

**生命歯学部**  
生命歯学部の部は、四月八日に生命歯学部富士見ホールにおいて挙行された。定刻午後一時、鈴木洋一庶務部長より開式が宣言せられ、生命歯学部入学生、編入学生、ならびに大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。中原泉学長と佐藤田鶴子大学院生命歯学研究科

長が訓辞を述べ、(要旨二面)、生命歯学部入学生を代表して藤川有沙さん、大学院入学生を代表して栃木啓佑君が宣誓し、午後一時四十分閉式した。

**新潟生命歯学部**  
新潟生命歯学部の部は、四月六日に新潟生命歯学部講堂において挙行された。定刻午後一時、大場憲栄事務部長より開式が宣言せられ、新潟生命歯学部入学生、編入学生、ならびに大学院入学生の点呼が行われた。中原学長、小倉英夫新潟生命歯学部長、宮川行男大学院新潟生命歯学研究科長が訓辞を述べ、(要旨二面)、新潟生命歯学部入学生を代表して高島

慶博君、大学院入学生を代表して村山和義君が宣誓し、午後一時四十分閉式した。

**東京短期大学**  
東京短期大学の入学式は、四月八日に生命歯学部富士見ホールにおいて挙行された。定刻午前十時、印出光宏短大事務長の司会により開式が宣言せられ、歯科衛生学科と歯科技工学科の入学、専攻科入学(歯科技工専攻・歯科衛生専攻)の点呼が行われた。おわりに新入生を代表して歯科技工学科の木村理佐さんが宣誓し、

柴崎浩一学長が訓辞を述べ、(要旨三画)、小倉英夫新潟生命歯学部長が「現在の日本は国難ともいえる時期にある。新社会のために貢献できるよう期待している」と祝辞を述べた。おわりに新入生を代表して中野愛海さんが宣誓し、午前十時四十分閉式した。



新入生に訓辞を述べる中原学長 (4月6日・新潟)



点呼に応じて起立する新入生たち (4月8日・東京)

小口春久学長が訓辞を述べ、(要旨三画)、ついで、来賓祝辞で住友雅人生命歯学部長は「日本歯科大学は東京の中心・千代田区に位置している。それを十分に活用し、歯科の勉強以外にも何か自分に身につけるものがあるれば、これからの活躍に広がっていく」と今後の勉学に期待を寄せた。つぎに、羽村章附属病院院長は「今年は忘れられない年になった。病院からも現地に何人かの歯科医師を派遣している。歯科の立場で、まず何をやるべきかを今一度考えることができた。これから世の中に必要な職業、必要な人材であると自覚して勉学に励んでいただき」と祝辞を述べた。

**中医協(専門)に佐藤田鶴子教授**  
生命歯学部口腔外科学講座の佐藤田鶴子教授が、三月一日付で、厚生労働省の中央社会保険医療協議会(中医協)の専門委員に任命された。住友雅人委員(生命歯学部長)の任期満了に伴う交代で、本学から連続の就任となる。

**勝海教授、歯科保存学会理事長**  
生命歯学部歯科保存学講座の勝海一郎教授が、四月一日より特定非営利法人日本歯科保存学会理事長に就任した。同学会は日本歯科医学会の分科会の中でも、会員数四千名を超える有数の学会で、春季と秋季の年二回、学術大会を開催する。

**Odontology 電子ジャーナル化**  
歯学会機関誌「Odontology」は、インターネット上の会員制オンライン・サイエンス誌として、本学歯学会の会員は、登録すればフルテキストを無料で閲覧できる。登録手続き等の詳細は本年五月発行『日本歯科大学校友会・歯学会会報』三十六巻四号・三二頁ヒトの一生・一年後期 関本恒夫(小児歯科教授)

平成22年度 ベストレクチャー賞 (生命歯学部) 一位 川原 洋(口腔外科) 二位 岩田 洋(口腔外科) 三位 宮坂 平(歯理工学) 四位 小林 隆太郎(口腔外科) 五位 影山 幾男(解剖学) 六位 横濱 宏之(解剖学) 七位 三井 ヒト(一生・一年後期) 八位 関本 恒夫(小児歯科)



**加藤喜郎教授(新潟) 最終記念講義**  
新潟生命歯学部歯科保存学第二講座の加藤喜郎教授の最終記念講義が、四月二十二日午後六時よりアイヴィホールで開催された。演題は「接着性レジン」の生体適合性と石灰化促進機能を有するレジン直接歯髄覆罩剤の開発」で、教職員、学生、大学院生が多数聴講した。加藤教授は、昭和四十一年本学卒業(第五十五回卒)、四十五年大学院歯学研究科修了後、歯科保存学講座助手、講師を経て、同四十八年新潟生命歯学部付、五十二年からは歯科保存学第二講座(保存修復学)教授として、三十四年間にわたり同講座を主宰した。

**日本歯科大学オープンキャンパス**

【生命歯学部(東京)】  
7/9(土)、8/18(木)、8/27(土)、10/8(土)  
11/3(木)、11/4(金) [富士見祭開催日]

【新潟生命歯学部】  
7/23(土)、8/27(土)、9/18(日)

# 中原泉学長 訓辞(要旨)



中原学長「人生に省エネは通用しない。努力せずには得られないほど歯科医師への道はたやかない」

「と云ってテレビで楽しんで突っついてた。戦争で片腕をなくした水木しげるは、人が遊んでいる間、寝ている間に働いた。人と同じに起き、寝ていたわけではない。わが国では近年大学生の学力が低下していると言われ、文部科学省の提唱したゆとり教育の結果が大変憂慮されている。ゆとり世代の若者の特色として一般的には、①大切に育てられている、②人と競争しない、③決して無理をしない、④適当

## 大学院生命歯学研究所 佐藤田鶴子科長 訓辞

みなさんは千年に一度という未曾有の、世界の記録に残る危急の時期に専門の学問を始めようとしている。地震後の国難ともいえる社会経済の混乱を、通常の生活でも実感していることと思う。多くのモノづくりの工場が被災したため、物資不足となり私ども研究者の手元にも影響が出始めた。しかしながら、震災による実験中止などはものともせず、一日も早く研究を再開し立ち上げなければならぬ。手を動かし器械の操作を再開することも大事だが、最も大切なことは知識の増進を停滞させてはならない。

先月末に新入生諸君と入れ代わり本学を卒業した先輩諸君は、日本歯科大学第一〇〇回卒業生にあたる。本学は卒業以来通し番号で卒業回数を数えているので、諸君は六年のうちに第一〇六回卒業生として卒業していく。入学式で卒業の話をするのは早すぎると思うかもしれないが、六年後の卒業の時点における諸君の到達目標を明示しておく必要がある。諸君は六年の教育課程を修了して卒業すると、学士(歯学)の学位を取得する。これは歯科医師国家試験を受験する資格を有するという立場だ。卒業の月に国家試験を受験して合格し、歯科医師の資格を取得する。そこで初めて病院や診療所に勤め患者さんの診療を行うことができる。

人生楽しんで幸せになれば、それは天国である。この世は決してユートピアではない。生まれおちた瞬間から努力する、それが生き物である我々に課せられた宿命である。ゲゲの鬼太郎で知られる水木しげるは、「普通の人は怠け者だ、水木さんは怠け者のふりをしている。人は水木さん一倍働いている。人は水木さんに騙されて、働かなくていいかと思ってい

なところで満足する、⑤今がよければよい、⑥自分だけに閉じこもりがち、⑦人間関係が下手、と言われているが、このような若者たちで日本はよいのだろうか。新入生諸君に繰り返すが、若い世代は楽をしたから、将来何とかなるだろうと甘くみる。そして今やるべきことを怠らないのが世の中なのだ。できるだけ楽をし汗をかかないで世の中をわたろうと、自分のエネルギーを節約するのは誤りで、人生に省エネは通用しない。

今年はそのトライアルの年で、一例を挙げると、疫学研究のあり方や共同研究上の守秘義務と利益相反、特許を踏まえ知的財産権の講義を設けた。さらに歯科領域の研究とは何か、大学院研究のリサーチマインドな活の開始にあたる初年度教育を大幅に変えた。



歯科医師をめざし、これから6年間の大学での勉学に期待を込めて力強く宣誓する新入生代表(上:生命歯学部、下:新潟生命歯学部)



取得は新入生諸君の判断であり、その結果は諸君の自己責任であること念を押して、学長訓辞とする。(4月6日)

現在の日本は、未曾有の大災害を被って国難ともいえる状態だといえる。このような状況のもとで何をすればいいか、自分の心を強くもち、困難に立ち向かって克服してほしい。日本歯科大学の建学の精神は自主独立、これも強い心でなくては達成できない。医療人はまず自主

取ること方法論や内容的なものがある。本学は医療系、それも生命歯学部なので、生命歯学の専門知識を身につける、もちろん小中高で勉強してきたことは、これから学習することの礎となる。また大学の教育は、単に教科書に書いてあることだけを教えるわけではない。大学では、新しい知識を得るための研究をしている。歯科医学は日進月歩で進んでおり、日本歯科大学では、昨年末に歯の再生に成功した。このように新しい研究成果、知識も学習してもらおうのが大学教育の特

色である。そのためには自分から求めて勉強しなければならぬ。新入生諸君は、六年たったのち専門家として世に認められるよう、最大限の努力をしよう。だいたい。そして学習、専門知識のみならず新キャンパスの中で、さら

たつたのち専門家として世に認められるよう、最大限の努力をしよう。だいたい。そして学習、専門知識のみならず新キャンパスの中で、さら

な知識になると確信し企画した。是非とも自らの榮養としてほしい。古来、共同で収穫したものは野山で狩りから得た獲物の一人前の取り分を当たり前といい、それぞの働きの応じた分け前が決められたそうだ。「当たり前」という言葉が、当たり前でない時代が

あつた。人は慣れると、すぐ当たり前と思ってしまうがちだ。今ここに生きていることも飲む水があることも、空気を吸えることも、奇跡に値することもある。奇跡に値するのだから、この奇跡が積み重なって心の麻痺が起ころう。しかし今日、みなさんが本大学院で学ぶ機会を得られたことは、とても当たり前とは思えない。奇跡に近い重みがあると感じている。この危機のときに果敢に研究生活に挑もうとするみなさんは、私どもの研究科でスタッフの一員となる。新しい歯科におけるエビデンスと技術を発見する努力をしていただきたい。その成果と業績をこの日本歯科大学から発信し、四年後に目標の博士号を取得できるように精励されることを切に願う。(4月8日)

自分自身を振り返ってみると、今まで最も充実していたのは大学院生時代の四年間だった。大学院生も学生と大きく異なる。学部学生とは大きく異なる。学部では確立している内容の学問を学び、国家試験をはじめ各種の試験には正解があつた。歯科医師臨床研修において、このやり方が正解というものを学んだ。しかしながら、これらの四年間で纏めようとしている学位論文の結論と、正解は存在していない。それは新知見であつて、人類史上はじめて諸

君自身が見いだすものだからだ。指導教授であつても、予測はしていても事前に正解は知らない。もし分かっていたらならば、その研究は行つていない。研究結果を纏めた論文の内容、新知見が研究科委員会において、歯学に寄与するところが大きいと認められてはじめて博士(歯学)の学位が授与される。四年間で学位を取得することは容易ではない。でも心配はいらない。指導教授は諸君にとっての最適の研究テーマを示し、ゴールへと続く道しるべを教えてください。

また研究テーマに関連した多数の文献を批判的な目で読むと、最先端の状況や手法を把握できるし、論文の書き方も身につけてくる。ゴールにたどり着く前には困難が待ち受けているが、乗り越えるための適切なアドバイスを指導教授がしてくれるだろう。しかし突破するのはあくまでも諸君自身だ。努力して力をつけ、困難を突破してゴールしたときの大きな喜びと達成感を味わってほしい。その時には、論文作成に協力してもらった方々に対する感謝の念が自然と湧いてくると思ふし、以降の人生にとって有益な人間関係が築けるだろう。諸君の学位論文が、本学歯学会発行のJournal of Dentistryに他の一流の国際誌に掲載される研究成果をあげてくれることを期待している。(4月6日)

また研究テーマに関連した多数の文献を批判的な目で読むと、最先端の状況や手法を把握できるし、論文の書き方も身につけてくる。ゴールにたどり着く前には困難が待ち受けているが、乗り越えるための適切なアドバイスを指導教授がしてくれるだろう。しかし突破するのはあくまでも諸君自身だ。努力して力をつけ、困難を突破してゴールしたときの大きな喜びと達成感を味わってほしい。その時には、論文作成に協力してもらった方々に対する感謝の念が自然と湧いてくると思ふし、以降の人生にとって有益な人間関係が築けるだろう。諸君の学位論文が、本学歯学会発行のJournal of Dentistryに他の一流の国際誌に掲載される研究成果をあげてくれることを期待している。(4月6日)

また研究テーマに関連した多数の文献を批判的な目で読むと、最先端の状況や手法を把握できるし、論文の書き方も身につけてくる。ゴールにたどり着く前には困難が待ち受けているが、乗り越えるための適切なアドバイスを指導教授がしてくれるだろう。しかし突破するのはあくまでも諸君自身だ。努力して力をつけ、困難を突破してゴールしたときの大きな喜びと達成感を味わってほしい。その時には、論文作成に協力してもらった方々に対する感謝の念が自然と湧いてくると思ふし、以降の人生にとって有益な人間関係が築けるだろう。諸君の学位論文が、本学歯学会発行のJournal of Dentistryに他の一流の国際誌に掲載される研究成果をあげてくれることを期待している。(4月6日)

また研究テーマに関連した多数の文献を批判的な目で読むと、最先端の状況や手法を把握できるし、論文の書き方も身につけてくる。ゴールにたどり着く前には困難が待ち受けているが、乗り越えるための適切なアドバイスを指導教授がしてくれるだろう。しかし突破するのはあくまでも諸君自身だ。努力して力をつけ、困難を突破してゴールしたときの大きな喜びと達成感を味わってほしい。その時には、論文作成に協力してもらった方々に対する感謝の念が自然と湧いてくると思ふし、以降の人生にとって有益な人間関係が築けるだろう。諸君の学位論文が、本学歯学会発行のJournal of Dentistryに他の一流の国際誌に掲載される研究成果をあげてくれることを期待している。(4月6日)

また研究テーマに関連した多数の文献を批判的な目で読むと、最先端の状況や手法を把握できるし、論文の書き方も身につけてくる。ゴールにたどり着く前には困難が待ち受けているが、乗り越えるための適切なアドバイスを指導教授がしてくれるだろう。しかし突破するのはあくまでも諸君自身だ。努力して力をつけ、困難を突破してゴールしたときの大きな喜びと達成感を味わってほしい。その時には、論文作成に協力してもらった方々に対する感謝の念が自然と湧いてくると思ふし、以降の人生にとって有益な人間関係が築けるだろう。諸君の学位論文が、本学歯学会発行のJournal of Dentistryに他の一流の国際誌に掲載される研究成果をあげてくれることを期待している。(4月6日)

また研究テーマに関連した多数の文献を批判的な目で読むと、最先端の状況や手法を把握できるし、論文の書き方も身につけてくる。ゴールにたどり着く前には困難が待ち受けているが、乗り越えるための適切なアドバイスを指導教授がしてくれるだろう。しかし突破するのはあくまでも諸君自身だ。努力して力をつけ、困難を突破してゴールしたときの大きな喜びと達成感を味わってほしい。その時には、論文作成に協力してもらった方々に対する感謝の念が自然と湧いてくると思ふし、以降の人生にとって有益な人間関係が築けるだろう。諸君の学位論文が、本学歯学会発行のJournal of Dentistryに他の一流の国際誌に掲載される研究成果をあげてくれることを期待している。(4月6日)

また研究テーマに関連した多数の文献を批判的な目で読むと、最先端の状況や手法を把握できるし、論文の書き方も身につけてくる。ゴールにたどり着く前には困難が待ち受けているが、乗り越えるための適切なアドバイスを指導教授がしてくれるだろう。しかし突破するのはあくまでも諸君自身だ。努力して力をつけ、困難を突破してゴールしたときの大きな喜びと達成感を味わってほしい。その時には、論文作成に協力してもらった方々に対する感謝の念が自然と湧いてくると思ふし、以降の人生にとって有益な人間関係が築けるだろう。諸君の学位論文が、本学歯学会発行のJournal of Dentistryに他の一流の国際誌に掲載される研究成果をあげてくれることを期待している。(4月6日)

また研究テーマに関連した多数の文献を批判的な目で読むと、最先端の状況や手法を把握できるし、論文の書き方も身につけてくる。ゴールにたどり着く前には困難が待ち受けているが、乗り越えるための適切なアドバイスを指導教授がしてくれるだろう。しかし突破するのはあくまでも諸君自身だ。努力して力をつけ、困難を突破してゴールしたときの大きな喜びと達成感を味わってほしい。その時には、論文作成に協力してもらった方々に対する感謝の念が自然と湧いてくると思ふし、以降の人生にとって有益な人間関係が築けるだろう。諸君の学位論文が、本学歯学会発行のJournal of Dentistryに他の一流の国際誌に掲載される研究成果をあげてくれることを期待している。(4月6日)

また研究テーマに関連した多数の文献を批判的な目で読むと、最先端の状況や手法を把握できるし、論文の書き方も身につけてくる。ゴールにたどり着く前には困難が待ち受けているが、乗り越えるための適切なアドバイスを指導教授がしてくれるだろう。しかし突破するのはあくまでも諸君自身だ。努力して力をつけ、困難を突破してゴールしたときの大きな喜びと達成感を味わってほしい。その時には、論文作成に協力してもらった方々に対する感謝の念が自然と湧いてくると思ふし、以降の人生にとって有益な人間関係が築けるだろう。諸君の学位論文が、本学歯学会発行のJournal of Dentistryに他の一流の国際誌に掲載される研究成果をあげてくれることを期待している。(4月6日)

また研究テーマに関連した多数の文献を批判的な目で読むと、最先端の状況や手法を把握できるし、論文の書き方も身につけてくる。ゴールにたどり着く前には困難が待ち受けているが、乗り越えるための適切なアドバイスを指導教授がしてくれるだろう。しかし突破するのはあくまでも諸君自身だ。努力して力をつけ、困難を突破してゴールしたときの大きな喜びと達成感を味わってほしい。その時には、論文作成に協力してもらった方々に対する感謝の念が自然と湧いてくると思ふし、以降の人生にとって有益な人間関係が築けるだろう。諸君の学位論文が、本学歯学会発行のJournal of Dentistryに他の一流の国際誌に掲載される研究成果をあげてくれることを期待している。(4月6日)

来院がますます増える高齢者に対する修復・補綴治療のヒントを提示!

日本歯科評論 別冊2011

最新刊!

## 高齢者にやさしい 歯冠修復・補綴治療

Biocompatibility(生体調和性)に基づいた対応

編著 高橋英登 (東京都杉並区 井荻南科医院)

生体は変化する! 高齢者の生体の変化を考慮した歯冠修復・補綴治療のポイント、さまざまな臨床ケースを中心に解説!

HYORON

I章 高齢者からの口腔はどのように変わるのか? ・高齢者の全身はどのように変化するのか?…菊谷 武 <ほか2編>

II章 ケースごとに見る高齢者への歯冠修復・補綴治療の実際 ・Biocompatibility(生体調和性)を考慮した高齢者の歯冠修復・補綴治療…高橋英登 ・高齢者にやさしい歯冠修復・補綴治療のための咬合様式…丸茂義二 ・高齢になった患者さんの補綴物をマグネットの新しいキーパーで修理する方法…今井文彰 <ほか8編>

III章 メインテナンス ・高齢患者のメインテナンス…小森朋栄・遠山佳之 <ほか1編>

IV章 材料

A4変判・158頁・オールカラー・定価5,040円(税込)

株式会社 ヒョロン パブリッシャーズ

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町15番地 神田TKMビル

Tel.03-3252-9261~4 http://www.hyoron.co.jp

# 東京短期大学 小口春久学長 訓辞



小口東京短大学長「学生時代、それは人生の中で最も楽しく花咲かせることができる時期である」

新入生諸君は憧れの大学生活、あるいはプロへの道、今どんな気持ちでスタートラインに立っているのでしょうか。大きな期待と不安が脳裏をか

めには幅広い知識、広い視野、鋭い洞察力、研究心およびあふれる好奇心が是非必要になる。出会いを大切に、多くの人たちに接して、多くのことについて語り合っ

出会わない人はいない。不運を嘆く人は、そのチャンスをとらえられなかっただけである。山が高いからと戻つてはいけません。行けば必ず越えられる。勉強することが多いからと怯んではいけない、やれば必ず終わる。

努力に優る天才はない。アイシシユタインは、人生は自転車のようなものだ、倒れないためには走らなければならない」と述べている。また「教育とは、学校で習ったことを全て忘れたのちに残っているものだ」と語った。これは教員に対しての言葉でもある。私たち教員は、本学の学生が卒業後、あるいは修了後、社会人になっても記憶に残る真の教育をやっ

# 新潟短期大学 柴崎浩一学長 訓辞

歯科衛生士になるために、希望に胸を膨らませながら入学されたみなさんにとって、今日から三年間の生活はまさに自分で決めた人生の第一歩となる。三年後の歯科衛生士国家試験合格を目標として、これまで以上の厳しい勉学が要求される。キュラムやスケジュールのもと、殆どの科目が必須科目となっている。さらに二年生の後期からは病院実習をはじめ、専門的知識と技術をもった歯科医師や歯科衛生士から技術を学ぶことになる。

また志を一にするクラスメイトと一日も早く打ち解け、お互いに励まし合い、慰めあつてこの厳しい事情を乗り越えてほしい。一人だけの生活に不安をいだき、自分だけでは解決できないような事態が起こった時には、遠慮なく悩まずにクラス主任の先生に相談してほしい。必ずやみなさんの力になれると確信している。本学の最も素晴らしいところは、全教職員があなた方の幸せを心から念じ、成長を願いながらマンツーマンで指導してくれることだ。

平成二十三年度の日本歯科大学大学院生命歯学研究科入学生十三名、新潟生命歯学研究科入学生七名は次の通り。  
(生命歯学研究科)

# 点景・スカイツリーが見える...



生命歯学部本館8階からランドパレス方向を望む

- 新入生諸君は憧れの大学生活、あるいはプロへの道、今どんな気持ちでスタートラインに立っているのでしょうか。大きな期待と不安が脳裏をか



柴崎新潟短大学長「思いやりのある医療人になるためには、一日一日の積み重ねが大切だ」

医療人としての基本的な姿勢や態度を学ばなくてはならない。言葉で言うことは簡単だが、患者さんから信頼され、慕われる人間になるためには、一日一日の積み重ねが必要だ。時間の許す限り、専門書以外の本なども読んで一般教養を養うとともに、人に感謝し、気を配り工夫し、そして検討して行動するという、いわゆる力キケコの精神、この一連の行動が、スムーズにできるよう訓練することが大切だ。

## 浜浦祭

2011年6月11日(土)、12日(日)

Hamaura Festival

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により、被災された方々、およびその関係者の方々に少しでもお役に立てるよう、お祝いする。本校学生有志による「浜浦祭」を開催いたします。被災された方々の手助けをなされるよう、皆様のご協力をお願いいたします。

学長 柴崎浩一	副学長 山岡雅子	学務部長 山岡雅子	学生部長 山岡雅子	生活部長 山岡雅子	保健部長 山岡雅子	施設部長 山岡雅子	国際部長 山岡雅子	総務部長 山岡雅子	庶務部長 山岡雅子	広報部長 山岡雅子	学生課長 山岡雅子	生活課長 山岡雅子	保健課長 山岡雅子	施設課長 山岡雅子	国際課長 山岡雅子	総務課長 山岡雅子	庶務課長 山岡雅子	広報課長 山岡雅子	学生課員 山岡雅子	生活課員 山岡雅子	保健課員 山岡雅子	施設課員 山岡雅子	国際課員 山岡雅子	総務課員 山岡雅子	庶務課員 山岡雅子	広報課員 山岡雅子
---------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

# 睡眠歯科センター装い新たに

## ニーズに応える睡眠医療認定施設 **新潟**

本院新潟病院では、来院患者のニーズや利便性に応えるため、二階のいびき診療センターを一階の元病理学研究室に移設し、検査室、待合室、相談コーナーなどを大幅に拡充した。

これを機に名称を「睡眠歯科センター」に変更し、装いを新たに四月一日よりスタートした。センター長は、引きつづいて口腔外科の河野正己教授が務める。

同センターは、病院各科から配属された医師、歯科医師、検査技師約二十名により構成され、いびき症や睡眠呼吸障害などの睡眠時無呼吸症候群（SAS）、睡眠中ブラキシズムと、それらに伴う様々な睡眠障害の診療にあたる。

同センターは、社団法人



△新潟病院 1階に移転した睡眠歯科センター



△最新の検査機器による診断を患者さんに説明するセンター長の河野教授



△ゆったりとしたスペースの待合コーナー

### 校友会長に近藤勝洪先生 新任



日本歯科大学校友会会長に、東京都の近藤勝洪先生が就任した。五月二十八日開催の校友会定時総会で新任された。

近藤会長は、昭和四十年本学卒業（第五十四回卒）、校友会本部の副会長等を歴任し、現在は学校法人日本歯科大学評議員、社団法人日本歯科医師会の副会長を務める。

### 歯学会長に宮川行男教授 再任



日本歯科大学歯学会会長に、新潟生命歯学部先端研究センターの宮川行男教授が就任した。六月四日開催の歯学会総会において再任された。

宮川会長は、昭和四十九年本学卒業（第六十三回卒）、大学院歯学研究科修了、平成十一年先端研究教授。四月から大学院新潟生命歯学研究科長を務める。

### 螺良恭弘君（新潟5年生）人命救助で表彰

昨年十二月四日、新潟生命歯学部の軽音楽部が冬のコンサートを新潟市内のライブハウスで開催中、参加部員の一人が意識を失って心肺停止状態となった。

そこに居合わせた部員の螺良恭弘君（当時四年生）は、直ちに心臓マッサージの蘇生処置を施し、救急隊の到着前に心肺機能を回復させた。大事に至らなかったのは、同君の気道確保など適切な処置によるものだった。

### 女性歯科医の集い2011

日本歯科大学校友会では、本学卒業の女性歯科医師に対し、校友会への入会を促進し、活動に参加してもらったため、「女性の会」を発足させた。

四月十七日、飯田橋のホテルメトロポリタンエドモントで「女性患者さん向け審美歯科治療最新線」をメインテーマに、同会主催により講演会が開催された。講師は東京都の高橋英登先生（六十六回卒）。講演終了後、華やかな懇親会が催された。



磐梯スポーツ村に支援金を贈呈する  
福島県猪苗代町の磐梯スポーツ村での合同合宿は、東日本震災のため中止になった。スポーツ村とは二十五年におよぶ付き合いであることから、本学では同村に支援金を贈呈することとした。

また生命歯学部の卒業生有志は、三月十一日の卒業式後に記念パーティーを企画していたが、中止となったので集めた会費を役立てるため、被災者の支援金として猪苗代町に贈呈することとした。

四月二十八日に、生命歯学部学生部長の沼部幸博教授、新潟生命歯学部学生部長の吉江紀夫教授らがスポーツ村と猪苗代町を訪れ、おのの支援金を贈呈した。

（写真・支援金を贈呈する吉江、右端は沼部学生部長）

## 平成24年度A O 入学試験・推薦入学試験（平成23年実施）

試験区分	A O 入学試験	推薦入学試験	編入学前期入学試験	
学部	新潟生命歯学部	生命歯学部（東京）	新潟生命歯学部	生命歯学部（東京）
募集人員	約15名	約10名（指定校制・公募制）	若干名	若干名
出願期間	郵送・窓口とも：23年8月29日（月）～9月8日（木）	郵送・窓口とも：23年10月24日（月）～11月1日（火）	郵送・窓口とも：23年10月24日（月）～11月1日（火）必着	郵送・窓口とも：23年10月21日（金）～10月28日（金）必着
出願場所・試験場	日本歯科大学新潟生命歯学部 〒951-8580 新潟県新潟市中央区浜浦町1-8 ☎025-267-1500	日本歯科大学生命歯学部（東京） 〒102-8159 東京都千代田区富士見1-9-20 ☎03-3261-8311	日本歯科大学新潟生命歯学部 〒951-8580 新潟県新潟市中央区浜浦町1-8 ☎025-267-1500	日本歯科大学生命歯学部（東京） 〒102-8159 東京都千代田区富士見1-9-20 ☎03-3261-8311
試験科目等	出願資格（オープンキャンパス参加が必須、昨年度参加可） ・目標を定めその実現のために積極的に行動することのできる、目標意識と意欲のある者 ・医療人にふさわしい高い倫理観や適性を持った者 ・合格した場合に入学を確約できる者 ・その他、高等学校卒業者と同等以上の学力があると認められる者等・・・  選抜方法 1) 高等学校調査書 2) 面接試験（グループ・個人） 3) 実技評価 4) 資格取得状況、文化・芸術・スポーツの分野やボランティア活動なども評価	出願資格（公募制） 1) 平成23年3月卒業生並びに平成24年3月卒業見込みの者で人物・健康ともに優れ学校長が推薦する者 2) 合格した場合に入学を確約できる者  選抜方法 1) 高等学校調査書 2) 英語小テスト 3) 面接試験	出願資格（指定校制） 1) 平成24年3月卒業見込みの者で、人物・健康ともに優れ学校長が推薦する者 2) 3年1学期までで、評定平均値3.5以上または数学・理科・外国語の3教科の評定平均値3.4以上の者 3) 合格した場合に入学を確約できる者  選抜方法 1) 高等学校調査書 2) 英語小テスト 3) 面接試験	出願資格 1) 大学卒業生、または平成23年3月卒業見込みの者 2) 大学に2年以上在学して、所定の単位を取得した者 3) 短期大学または高等専門学校の既卒者  選抜方法 1) 出身大学、在学大学、出身短期大学または出身高等専門学校の成績証明書 2) 英語小テスト 3) 小論文 4) 面接試験
試験日	平成23年9月10日（土）	英語小テスト、面接試験とも 平成23年11月3日（木）	英語小テスト、面接試験とも 平成23年11月6日（日）	平成23年11月3日（木） 平成23年11月2日（水）
合格発表	平成23年9月14日（水）に本人に合否通知を速達郵便で発送する。	平成23年11月4日（金）に本人と高等学校長宛に合否通知を速達郵便で発送する。	平成23年11月8日（火）に本人と高等学校長宛に合否通知を速達郵便で発送する。	平成23年11月8日（火）に本人に合否通知を速達郵便で発送する。
手続期限	平成23年9月22日（木）	平成23年11月16日（水）	平成23年11月18日（金）	平成23年11月14日（月）